

伊香具地域づくり協議会の防災訓練が行われました



令和2年10月25日(日)に役員と消防団の方だけの二十数名で実施しました。
コロナ感染防止で密を避けました。13時30分から15時半まで行われました。

1・コロナ禍における避難所設営の基礎知識を学びました。



- ・ 避難所運営について
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策
- ・ 自治会役員としての災害対応



講師の長浜市防災危機管理局 安原秀男氏

伊香具小学校は市内に76か所ある指定避難所のひとつになります。
裏側が山なので大雨の場合は土砂崩れの恐れがあり、地震の災害時の避難場所となります。大雨の場合は長浜伊香ツインアリーナになります。
伊香具地区の指定避難所はこの二か所です。
ツインアリーナは地震と大雨の両方に対応します。
地震災害の場合、震度5弱で市が判断し避難情報を出し、開設されます。

ここで注意することは**どうしても自宅で生活できない人が利用する**、ということです。 <密を避けての防災研修の様子>
震災関連死という最悪の事態に陥る恐れがあります。それは避難時の怪我の危険をクリアして避難所に入っても被災直後は元気があったのに、様々なストレスや行動が制限され十分な食事がとれず体力の低下で慢性疾患の悪化などを引き起こし、

悲しいことに死亡することもあるからです。
また現在のコロナ感染のリスクがあるとさらに危険度が増します。
耐震化などにより自宅が危険でないなら家に残ったままの「在宅避難」のほうが心身の健康を保てる場が多いからです。



非常持ち出し品について 一例

内容については別紙のグリーン紙に非常持ち出しの品目の例を載せてありますのでご活用いただきたいです。
地震による被災をなくしたり少なくする減災のポイントは①住居の耐震化 ②家具の固定 ③靴・サンダルなどの履物を寝室など室内に備える ④ 非常持ち出し品の準備です。
非常持ち出し品はひとつのリュックなどに入れ、すぐ持ち出しできるようにしておきます。写真の展示品は一つのリュックに入っていたものです。お金は万札は災害時には使えません。十円百円などの硬貨、千円札を準備します。
またリュックなどの置き場所は枕もと、玄関、車庫、倉庫、納屋などつさに手にできる場所がよいです。



二宮和彦会長の開催の挨拶



非常持ち出し品の説明を受ける

2・小学校に設置の防災倉庫の備品について

広場に設置されている防災倉庫の備品を確認しました。いつもは施錠されていて誰も中をのぞくことができませんでした。この防災倉庫の活躍開始は小学校が指定避難所になって行政の方が避難所開設をされる際に開錠してから。したがって鍵は地域づくり協議会や自治会、消防が持っているのではなく市が管理しています。開錠についての心配はありません。備品は写真のものだけでなく毛布、水などが倉庫に入っております。



市の担当の方に説明を受ける。



順番に防災倉庫の中に入り備品を確認する

発電機を動かし照明器具を点灯させてみる。

発電機はガソリンや灯油でなく、市販されているカセットガスボンベ缶を使用します。油の危険性と劣化の心配がありません。組み立て式の簡易トイレもあります。



3・別紙について

この広報と一緒にお配りするピンクとグリーンの紙は両面印刷になっております。ピンクは減災の知識我が家の防災チェック・災害行動が記載されていてグリーンは長浜市の指定避難所一覧、非常持ち出し品、非常備蓄品の一例が記載されています。読んでいただき保管をお願いします。常に心構えをお願いします。



我が家の防災チェック・災害行動

管線の確認

- 家内の配管（ガス、水道、電気）を確認する。
- ガスの取付状況（ガスコンロのフィルタ、換気扇の換気状況）
- 配管の老朽化（腐食、破損など）
- 配管の固定（地震・台風など）
- 配管の経路（壁内、天井裏など）
- 配管の材質（銅、鉄、樹脂など）
- 配管の径（太さ）を確認する。
- 配管の径（太さ）を確認する。
- 配管の径（太さ）を確認する。

自分と家族の身を守る

- 家族の人数を確認する。
- 家族の人数を確認する。
- 家族の人数を確認する。

災害時の行動

- 避難所への避難経路を確認する。
- 避難所への避難経路を確認する。
- 避難所への避難経路を確認する。

非常備蓄品 (例)

品名	数量	備考
食料
飲料
衛生用品
医薬品
防寒用品
その他

非常備蓄品 (例)

品名	数量	備考
...
...
...

はやいものでもう今年も12月。伊香具地区には大きな自然災害もなくこのまま無事に新年を迎えたいものです。年初には想像もできなかったコロナ禍で行事や行動に制限、制約を受けた年でもありました。当たり前前の生活がなくなるということは考えられなかったことです。高校野球がなくなり各種イベントも中止、縮小になりました。失って有難味がわかります。身体の機能や家族、友人を失って有難さを知るだけでなく当たり前のように学校や職場、旅行、レジャーに行けるのが幸せだったことを感じました。マスクをせずみんな集まり大きな声で語り合い、また食事をしたり笑いあえるような人間本来の自由で自然な生活をはやく取り戻したいものです。